

(様式1)

## 大阪市立長池小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

### 1 学校運営の中期目標

#### 現状と課題

本校は教育目標に「ねばり強い子どもを育てる」を掲げ、「個性が輝く学校」を学校経営の重点に教育活動を進めている。児童は規範意識が高く、学習規律も概ね確立されている。たて割り活動を重視し、ふれあい活動での田辺大根の栽培をはじめ児童会活動を中心に異学年グループでの協力・交流の機会が多い。

自己肯定感を示す「自分にはよいところがある」という質問には肯定的な回答が多くを占めるが、昨年では一昨年度より否定的な回答が若干増え、約17%であった。継続して自尊感情を高める取り組みをしていく必要がある。

本校の児童は全国学力・学習状況調査や経年調査の結果からみても学力面では全国平均、大阪市平均を数ポイント上回っている。本校の「漢字道場」や「習熟度別少人数指導」等の取り組みが、学習習慣の定着割合の高さと相まって効果を上げていると考えられる。

しかし、共通目標にも挙げられている、学習に対する理解が十分でない児童の割合は減少傾向にあるが、依然学力の2極化は顕著になっている。個に応じた指導をさらに進めていく必要がある。

また、個人差はあるが読書習慣がついていない児童が比較的多いと思われる事が本校の課題の一つである。読書力は学習面全般にかかわってくるので、読書環境を整えたり、読書意欲を向上させる取り組みを工夫したりするなどして読書習慣を定着させる取り組みを引き続き進めていきたい。

本校の特色の一つであるたて割りグループでの活動を年間を通して実施している。異学年との交流により自己肯定感や他者理解の気持ちが育っている。また、地域等の協力を得ながら体験的な学習や発表の機会を多くもつようにしている。これらは主体的に学習する意欲や表現する力、意見を述べる力につながっていると考えられる。引き続き継続充実を図っていく。

体力面では31年度の体力・運動能力・運動調査では体力合計点は全国・市平均を上回っているが、20mシャトルランが男女とも市平均を下回っているという結果であった。学年によって体力、運動能力にもばらつきがあるが、体育の授業だけでなく、ナガリンピックピック週間の定着、ナガリンピックカードの活用等、運動できる機会や意欲を高める取り組みを行ってきた結果、この3年間の結果から体力、運動能力の向上が見られる。今後も引き続き運動の日常化と意欲の向上に努めていく。

**中期目標**

**【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】**

- 令和2年度末の学校評価児童のアンケートで「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「とてもそう思う」「そう思う」と答える児童の割合を90%以上にする。
- 令和2年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
- 令和2年度末の学校評価児童のアンケートで「自分にはよいところがある」の項目について、「とてもそう思う」「そう思う」と答える児童の割合を85%以上にする。

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

- 毎年度末の学校評価児童のアンケートで「授業がよくわかる」の項目について「とてもそう思う」「そう思う」と答える児童の割合を毎年前年度より向上させる。
- 令和2年度末の学校評価児童のアンケートで「自分で運動することができるようになってきたと感じる」の項目について「とてもそう思う」「そう思う」と答える児童の割合を85%以上にする。
- 令和2月年度末の小学校学力経年調査（校内調査）における「読書は好きですか」に対して「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和2年度末の学校評価アンケートの「さまざまな体験をしたり自分が疑問に思ったことをさまざまな方法で調べて解決したりしていく学習をしている。」項目で「とてもそう思う・そう思う」と答える児童の割合を85%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### **【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

#### **全市共通目標（小学校）**

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

#### **学校園の年度目標**

- 令和 2 年度末の学校評価児童のアンケートで「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「とてもそう思う」「そう思う」と答える児童の割合を 90%以上にする。  
(31 年度 88.5%)
- 令和 2 年度末の学校評価児童のアンケートで「自分にはよいところがある」の項目について、「とてもそう思う」「そう思う」と答える児童の割合を 85%以上にする。  
(31 年度 82.9%)

## **【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

### **全市共通目標（小・中学校）**

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。(31年度 83.4%)
- 令和2年度末の全国体力・運動能力習慣調査において、特に課題であるシャトルランの平均の記録を2ポイント向上させる。

### **学校園の年度目標**

- 令和2年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「読書は好きですか」に対して「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と回答する児童の割合を80%以上にする。 (31年度 76.4%)
- 令和2年度末の学校評価アンケートの「さまざまな体験をしたり自分が疑問に思ったことをさまざまな方法で調べて解決したりしていく学習をしている。」項目で「とてもそう思う・そう思う」と答える児童の割合を85%以上にする。 (31年度 81.0%)

### 3 本年度の自己評価結果の総括

- 安全で安心できる学校、教育環境の実現においては、部会や職員会議にて教職員間で児童理解を深め、年間を通してスクリーニングシートを活用して共通理解を図った。また、いじめアンケートを学期ごとに実施し認知したいじめ事案については迅速に対応し 100%解消した。
- 道徳心・社会性の育成では、児童朝会等を通して生活目標の定着を図るとともに各学級での指導を継続して行った。また、児童会による強調週間の呼びかけ等により、規範意識は高まった。校内アンケートで学校生活のきまりを守っていると答えた児童は 91.9%と目標を上回った。
- 人権を尊重する教育の推進では、各学級での活動や、行事等の取り組みにより自他の頑張りを認め合う態度が育ってきている。学校へ行くのが楽しいと答えた児童は 88.5%から 91.3%と増加した。また、自分にはよいところがあると答えた児童も、82.9%から 85.4%と増加した。自他ともに尊重しあうことのできる環境づくりにより一層努める。
- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、4年：104.2→105.5  
5年：107.0→106.7 6年：102.5→101.8 となり、4年増加、5・6年減少の結果であった。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、4年：4.1→1.3 5年：1.4→1.4 6年：10.2→8.9 となり、減少もしくは維持の結果であった。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、4年：47.9→43.4 5年：55.6→47.2 6年：40.8→24.4 となり、いずれの学年も減少する結果となった。
- 学力向上への取組は、発言のしかたや話し合いの方法を示すなどして取り組み、授業中の話し合い活動を通じて、しっかり聞いたり自分の意見を話したりすることができたと答えた児童は 83.4%から 87.9%と増加した。
- 健康や体力の保持増進については、ナガリンピック週間を継続していることで、運動に対する意識は高まってきており、ナガリンピックカードを使って自分で運動できるようになってきた児童が、79.6%から 84.4%と増加した。さらに意欲を高める工夫を進め。全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、課題であったシャトルランの結果が男女ともに令和元年度より 2 ポイント以上向上した。
- 地域に開かれた学校づくりでは、図書ボランティアや図書館補助員の協力のもと計画的に蔵書数が増加し読書に関する図書館や学級図書の環境は大変充実している。しかし、本年度は新型コロナウィルス感染症の拡大に伴い、図書館開放の際に密を避けるため入館者数の制限を行ったため、読みたいときに図書館を利用できない実態があり、読書が好きだと答えた児童は 80.4%から 78.8%と減少した。
- 体験的な学習の取組については、本年度新型コロナウィルス感染症の拡大に伴いゲストティーチャーを招いたり多様な体験学習を行ったりできなかった。その中で活動内容を工夫しながらできる限りの取り組みを行うことで、主体的な学習態度を育むとともに、学習意欲を高めることができた。

## (様式2)

## 大阪市立長池小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b>	
<p><b>全市共通目標（小・中学校）</b></p> <p>○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>○令和2年度末の学校評価児童のアンケートで「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「とてもそう思う」「そう思う」と答える児童の割合を90%以上にする。 (31年度 88.5%)</p> <p>○令和2年度末の学校評価児童のアンケートで「自分にはよいところがある」の項目について、「とてもそう思う」「そう思う」と答える児童の割合を85%以上にする。 (31年度 82.9%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【施策1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b> ・本校「学校いじめ防止基本方針」に基づき、アンケート（児童（各学期1回）、保護者（年1回））調査し、いじめ事案に対し校内いじめ対策委員会を設置し組織的に対応する。	B
<b>指標</b> 校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	
<b>取組内容②【施策2、道徳心・社会性の育成】</b> ・学級指導、看護当番による登校・学校生活指導、生活目標の定着を図るための児童朝会での指導、強調週間の実施等により児童の規範意識を高める。	B

<p><b>指標</b> 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容③【施策1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導部会（月1回）、職員会議（月1回）、児童理解研修会（年2回）を実施し児童に対する共通理解を深め全職員で組織的に取り組む。</li> </ul>	B
<p><b>指標</b> 個に応じた対応に努め、暴力行為を複数回行う加害児童、不登校になる児童がいない状態を前年度同様維持する。</p>	
<p><b>取組内容④【施策2 人権を尊重する教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自尊感情を高めるために、自分や友だちのがんばりやよさを認める。</li> </ul>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、学期ごとにいじめアンケートを実施。学級での指導、日々の児童からの聞き取り、保護者からの連絡、相談に対して、素早く対応・指導してきたので、学校で認知したいじめについて、100%解消。継続案件についても解消に向かっている。</p> <p>② 児童の実態に合わせた生活目標を設定し、職員朝会等で連絡・引き継ぎを密にし、様々な機会をとらえた学校や学級での指導、児童会による強調週間の呼びかけ等により、「学校のきまり・規則を守っていますか」の校内アンケートでは91.9%（昨年度88.1%）と90%を超えており。保護者からは96.9%（昨年度は94.7%）と昨年度以上に高い値を得ている。以上の結果より昨年度以上に児童の規範意識が高まっていると考えられる。</p> <p>③ 児童理解研修会や職員会議、管理職も参加した生活指導部会や特別支援部会などにおいて、児童についての共通理解を図り、全教職員で指導に努めてきた結果、暴力行為、不登校になる児童がいない状態を前年同様維持している。不登校、暴力行為を複数回行う加害児童については、それぞれ昨年同様1件ずつ。</p> <p>④ 学習活動・終わりの会・学校行事・ふれあい活動等では、発表やふりかえりカード、テーマ日記等を用いて、自分や友だちの頑張りを認め合う態度が育ってきている。中には、自分に厳しくしてしまう児童もいるが、「自分にはよいところがある」と答えた児童が85.4%と目標を達成することができた。また、「学校に行くことが楽しい」の項目では、91.3%と目標を上回ることができた。学校でトラブルが起きたときは、児童の思いを聞き、できるだけ早く解決できるように努めている。</p>	

次年度への改善点
①～④ 継続して取り組み、指導の充実を図る。
②児童朝会が放送朝会の形となり一斉指導がしにくい場面も多いので、より徹底できるよう学級等での声掛けなどにより指導の充実を図る。より行動面で定着できるよう継続して指導していく。
④自尊感情を高めるための取り組みを参考にして実践できるように、年度始めに取り組みの交流を行うことが必要ではないか。

(様式2)

### 大阪市立長池小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標（小・中学校）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</li> <li>○小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。</li> <li>○小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。</li> <li>○小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。（31年度 83.4%）</li> <li>○令和2度末の全国体力・運動能力習慣調査において、特に課題であるシャトルランの平均の記録を2ポイント向上させる。</li> </ul> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○令和2年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「読書は好きですか」に対して「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と回答する児童の割合を80%以上にする。 (31年度 76.4%)</li> <li>○令和2年度末の学校評価アンケートの「さまざまな体験をしたり自分が疑問に思ったことをさまざまな方法で調べて解決したりしていく学習をしている。」項目で「とてもそう思う・そう思う」と答える児童の割合を85%以上にする。（31年度 81.0%）</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b> ・個に応じた指導法や学習形態を工夫し、基礎基本を身に着け、学ぼうとする意欲を高める。	A
<b>指標</b> 学校評価アンケート「学年を3分割した学習は、学習内容がよくわかる。」の割合を8割以上とする。	B
<b>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b> ・読解、記述、コミュニケーションなどの多様な言語活動を各教科の学習過程に位置付ける。	B
<b>指標</b> 学校評価アンケート「授業中の話し合い活動などを通して、友だちの話もしっかり聞き、自分の意見もいうことができるようになってきた」の割合を8割以上とする。	B
<b>取組内容③【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】</b> ・ナガリンピックカードを有効に活用し、継続的に体力づくりに取り組めるようにする。 ・年間を通して月に1回ナガリンピック週間を設ける。(1学期 鉄棒、2学期 なわとび、3学期 マラソンを重点課題とする。)	B
<b>指標</b> 学校アンケートの「ナガリンピックに積極的に取り組めたか」に対して、(あてはまる・どちらかといえばあてはまる)と答えた児童を77%以上にする。	
<b>取組内容④【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</b> ・「読書タイム」や読書ノートなどの活用を図り、図書ボランティアや図書館補助員の協力のもと、学校図書館を整備して引き続き読書に親しむ環境づくりをすすめる。 ・学級文庫の充実を図り、本にふれる機会を多くする。	B
<b>指標</b> 経年調査における「読書は好きですか」に対して「当てはまる」の割合を75%以上にする。	
<b>取組内容⑤【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</b> ・体験的な学習や実験・実習を積極的に取り入れる。	B
<b>指標</b> どの学年も生活科や総合的な学習などでゲストティーチャーを招いての取り組みを1回以上計画する。	
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
①コロナの影響による制限がある中、各学年の実態、各単元や領域に応じた学習形態や習熟度別少人数指導の実施等により、児童の学習意欲が高まり基礎基本の力が身についた。	
②各教科の学習過程に発表や考えをまとめらる等多様な言語活動を工夫して取り入れたり、コミュニケーション能力を育成するための取り組みを行ったりしたことで、児童は友だちの話をしっかりと聞き、自分の意見を言うことができるようになってきている。	

③1・2学期は新型コロナウイルス感染症対策のため実施することができなかつたが、ナガリンピックカードを配付し、児童の意識付けを図ったり、休み時間に運動場で遊ぶように声かけを行ったりしてきた。3学期には、学年を分けてナガリンピックを実施し、重点課題に沿って体力づくりに取り組む意欲を高めるようにしてきた。その結果、学校アンケートでは、84.4%が肯定的に答えており、制限のある中でも工夫して取り組むことができた。

④図書ボランティアや図書館補助員の協力のもと、学年を分けて図書館開放を実施しているので、密を避けながら多くの児童が利用できた。また、「読書タイム」や読書ノート、学級貸出などの活用を図り、読書に親しむ環境づくりを整えることができ、本にふれる機会を多くすることができた。

⑤コロナの影響で、ゲストティーチャーを呼んだり体験的学習をしたりすることができなかつたが、生活科や総合的な学習の時間の活動内容を工夫しながら、できる限りの取り組みを行ったので、一定の効果は上がった。

#### 次年度への改善点

①算数科以外での実施を含め、習熟度別少人数指導のさらなる充実を図り、計画的に進められるようにする。

②活動内容や形態を工夫しながら、継続的に多様な言語活動に取り組めるようにする。

③今後も新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、活動内容や人数、場所などを工夫しながら体力づくりに取り組むことができるようとする。

④学級文庫の整理、児童の興味関心や各教科と関連した内容の本の補充を定期的に行う。

⑤コロナ対策をふまえた指標を考え、指導計画や実施方法の見直しをする必要がある。